

プールの水面にはおびただしい数の
チンウナギがひしめいていた。

少女はチンウナギの勢いに圧倒されながらも、
緊張で乱れる呼吸を整える。
バクバクと心臓が波打っていた。

ドキ
ドキ
ドキ

と、とりあえず足だけ
浸けてみようかな……

ソソソソ

フフフ

はしゃ

んちっびっ

スー

ハハハハ

足が近づくとつれ、
さらに活発になるチンウナギ。

少女の足が未知への恐怖でガクガクと震える。

ううう……、えいっ!!

少女は固く目を瞑り、
思い切って足をプールに浸けた。

ガクガク

パチッ

ビキビキ

シ

シ

シ

シ

シ

シ

シ

シ

シ

びびび

はしゅん

ビチビチビチビチビチツ

少女が足をつけた瞬間、
待ってましたと言わんばかりに
チンウナギがすさまじい勢いで這い上がる。

ビ
ク
ツ

ひやあああっ!!!

ぬるぬるとしたモノが足に絡みつく
気味の悪い感覚……。

予想以上の勢いに、反射的に少女は
足を抜こうとした。
ところが、あっという間にチンウナギは
ガツチリと少女の脚に絡みつき
身動きができなくなっていた。



いやああつ
やつぱり無理……!!

ぬるぬる

びしょびしょ

ぎゅぎゅ

ドロドロ

ぬるり

ぬるぬるしたチンウナギの
気持ち悪い感覚に
少女はパニックになり、
チンウナギを手で払いのけようとする。

しかし、すべりの良いチンウナギを
掴むことができない。
逆に腕にまとわりつき上半身にも
這い上がってきてしまった!

いや、怖いッ
誰か助けてっっ

ぬちゃり
ずるずるずる

勢いづいたチンウナギは少女の腕を這い上がり、
上半身をぬるぬると動き回る。

チンウナギは人間のメスを効率的に
孕ませるべく、品種改良を重ねられている。
そのため、男性経験のない少女よりも
オンナの体を本能で熟知していた。

さらに性交をスムーズに進めるべく、
ぬめついた粘液にも特殊な性質が宿っている。

きゃっ

ヌルヌル

チンウナギは少女の柔らかかな肌を
味わうようにしながら、
じりじりと胸に近づいていった。

ヒイツ やめて、
上がってこないで……っ

チンウナギが薄い布の上を這い、
粘液が染みてゆく。

すると這った箇所が
じんわりと熱を持った。



な、なにに？ これ、変な感じが……
むずむずするような、

ひあん!?

?

うずうず

ぽぽ

わんわん
わん わん

わんわん

じいあ

わんわん
わん

わん
わん

胸の付近をチンウナギが這うと、
ゾクゾクとした不思議な感覚が少女を襲った。

チンウナギのぬめついた粘液が
少女のカラダに眠る官能を呼び覚ましてゆく……。

いつの間にか2匹もチンウナギが
這い上がってきいていた。

そして、ついにチンウナギは
少女のふくよかな胸にたどり着く。

やっ、あうッ
締め付けられないでっ

少女の胸をギュウギュウと
チンウナギが締め付けるほど、
粘液が胸に塗り込まれ
力が入らなくなっていく……。

びちびち

おしゃん

ギョッギョッ

もも

びん

ッ

ッ

ッ

アツアツ

キョ

い

無防備に晒された少女のかわいらしい突起は
薄い白装束の上からわかるくらい
ツンと勃ち上がり始めていた。

そんな少女の突起にチンウナギは喜々として吸い付いた。

ッーあっ
ッーあっ

ぽくっ♡

ちんちんっ

ひやあアっ
ああ!! だめえッ

やっ

快感のあまり無垢な少女の体は
ガクガクと震える。

はなして、噛まないでっ
いや、あんツ

あーっ

どうして？

胸でこんな風になったことないのに！

ガッ

いーいーいー

びりびり

エサに食らいつくように
チンウナギは少女の胸の突起を虐め抜く。

甘噛みしたかと思うと、
急に強く噛みついてグリグリと暴れまわるチンウナギ。

男を知らない体はチンウナギの与える刺激に
従順に反応しビクビクと震えた。

ふあ……つ
あ、あ……

はあ
はあ

いああ

スイ

ぐぐぐ

ガクガク

チンウナギに無理やり快感を与えられた
哀れな少女は放心し、
握っていた棒を手放してしまった。
ずるずるとチンウナギが彼女の足をひっぱり、
少女はプールに体を埋めていった……。

ズンズン